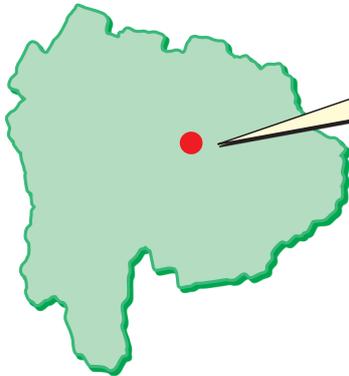




～自主防災組織を充実させる第一歩(地域に起こりうる災害を学び、具体的な対処方法について話し合う)～



小原西3区(山梨市)

人口：606世帯1577人

小原西3区は、地震以外での被災の可能性が低い。

当研修では、地震での被害を中心に、地域防災について学んでもらい、自主防災組織をより充実したものにできるようにと実施した。

- 研修内容：「地震災害から、我が身や家族、地域の人々の命を守るために今できること」(講義)
「防災マップ作成、災害図上訓練」(演習)

▶ 研 修

第一部の講義では、資料や動画などで過去の災害の様子や、家具の固定など自分でできる防災対策、耐震化に役立つ自治体の制度などを学習。

第二部の演習では、住宅地図を用いて、防災マップの作成を行い、そのマップを用いて安否確認の方法や消火、救助、要援護者支援の手順などを検討し、各班毎に発表、意見交換を行った。

▶ 成 果

これまで、当地域において自主防災組織は編成されていたものの、具体的な行動連携等のシミュレーションはされておらず、やや形式的な組織であった。また、防災訓練も主に組長が集まり、初期消火訓練や救護訓練、防災機材展示、機器操作訓練を毎年繰り返し実施してきた。

今回の研修を通じ、以下のような反省や課題が明らかとなった。

<反省>

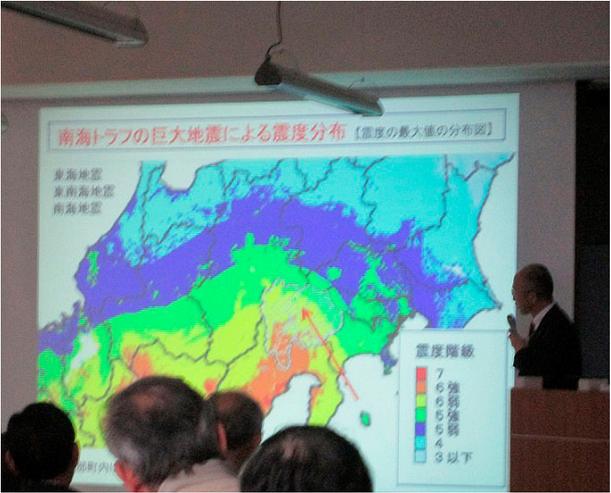
- ① これまでは、全ての家屋と住民が無事であることを前提として訓練を行っており、家屋被害と人的被害についてはあまり考えていなかった。
- ② 組内における安否確認や助け合い(共助)について、具体的には考えていなかった。

<課題>

- ① 家屋の火災や倒壊、それによる生き埋めなど、確実に起こる可能性の高い被害を想定し、「救助」「消火」「救護」等の訓練体系の構築や訓練の実施。
- ② 「救助資機材」や「人材」、空家や空き倉庫を活用した「備蓄」の配備マップの作成。
- ③ 要援護者の住居点検や家具の固定などの対策の実施など

▶ 研修の様子 ◀

① まずは講義でイメージをつかみます



② 要援護者などを地図にマークします



③ 示された課題についてグループで検討します



④ 最後にグループ毎に発表を行います



▶ 感想

今回の訓練の参加者から、「意義のある研修であった」、「私たちだけではもったいない。地域に広く教えて欲しい」「被災が前提だと、何とかしようと皆で考える」「人の情報は大事だし、日頃の関係づくりが大事だ」等々、好感の声を多くもらいました。

役員会においても、被災ありきの訓練への方向転換が議題となりましたが、一歩ずつできることに取り組んで参りたいと考えておりますので、宜しくご支援をお願い申し上げます。

(小原西3区 区長 鶴田陸雄氏 からののお便りより抜粋)